

洋果樹は北海道開拓使が導入して以来約百年になろうとしているが、其の間の品種の移り変りは激しく現在までに相当数の品種が導入された。しかし寒冷地ということから、耐寒性の弱いものは淘汰され、また栽培地域も限定され品種も激減した。其の間果樹栽培がようやく産業としての軌道に乗り出した頃から（明治末期以降）、北海道独特の品種が見出されたり（身不知、相内、北光）、耐寒性品種の育成、

外国から優望種の導入が行なわれ、かなりの寒冷地にまで栽培が可能になった。

現在では北部寒冷地において産地の集団化が進められているが、其の外自家用としての利用が多く、農家の庭先で季節に花を咲かせ、果実に色を付け単調になり勝ちな農家生活を楽しくさせている。

本号ではなし、ぶどうの寒高冷地向き品種の特性と栽培上の注意などについて述べ参考に供したい。

## 道専門技術員 相馬 栄吉

# なし

### 身不知

別名「千両」ともいい支那なしの系統で明治の中頃に余市地方で実生で発見された品種といわれ、北海道独特の品種で、樹勢が強健、耐寒性も非常に強く、果実は、大型の洋なし形で三七〇g内外になり、甘味が多いが、肉質は粗く品質はあまり良い方ではない。

収穫期は札幌地方で一〇月二〇日頃で、年内（一二月下旬）は貯蔵できる。無袋栽培も出来るが、若干果皮が荒れて外観を損じ、貯蔵力も弱くなる。しかし熟期が一週間内外早まり、甘味を増す。

本種の欠点として貯蔵中に果皮が黒くなる貯蔵病があり、大きな果実程発生しやすく貯蔵力が劣る。

自家不結実性の品種であるから、他品種を混植する必要がある。

結実がきわめて早く、豊産性で作りやすいので自家用栽培にも向いており、特殊な地帯を除いて北海道の全域に栽培ができ、一般的な品種である。

### 長十郎

明治二八年頃神奈川県で発見されたもので、日本なしの代表的品種として栽培されている。この品種は道南部の七飯地方に多く作られ、品質のよいものが生産されている。

樹勢は中位で、耐寒性がわり合弱いので

札幌以北の地方では栽培は無理である。

乾燥地では枝の伸びがぶく、収量もおちる。果実は円形で淡褐色をしており、果実の大きさは二八〇g内外で、肉質はやや粗いが、甘味が多く、品質は良い方である。

貯蔵力は長く札幌地方では一〇月下旬に収穫して翌春三月まで貯蔵できる。

この品種の欠点としては、やや黒星病に弱い。しかし病害虫防除が完全であれば、無袋栽培でも作れる。外観は果皮の緑色が若干増すが、可成り良質のものが作れる。

この品種も身不知と同じように自家不結実性の品種であるから受粉品種が必要である。

### パートレット

この品種は、明治五年開拓使によって、りんごと同時に導入された三〇品種の中の一品種で、現在なお西洋なしの代表的な品種として、札幌以南の地方で栽培されている。

生食用としてよりも罐詰用として有望であるが、札幌地方ではかなり強い剪定をしなければ結実が悪く収量が少ない。

札幌地方では平年九月一日五日を中心に採取する。採取当初は緑色が濃く、追熟に一週間一〇日間位要する。食用適期になったものは黄色になり、香りがあって品質も良い。食用期間が一週間位で短い採取期を二回に分けて行なうとその間だけ食用期間を延長できる。

樹勢は強い方であるが、耐寒性は長十郎程度で札幌以北の地方では経済的に栽培す



パートレット



千両